

第5次総合計画 中期戦略事業プラン 事務事業評価シート

事業名	スポーツ・レクリエーション活動推進事業			事業番号	11-103
事務事業担当	部名	部長名	課名	課等の長	
	保健福祉部健康づくり担当	井上 稔	スポーツ課	小巻 宏幸	

計 画 (Plan)

総合計画体系	暮らし力	まちづくり目標	1	誰もが明るく暮らせるまち	
		基本政策	3	人がつながり未来を拓く学び合うまちづくり	
		施策展開の方向	2	いつまでも学び生きがいを持つまちをつくる	
		施策	11	学習成果を生かせる生涯学習の推進	
予算事業名	スポーツ・レクリエーション活動推進事業費	総合体育大会開催費	スポーツ広場維持管理費		
	一般維持管理費(農業振興課)				
事務区分〔選択〕	<input checked="" type="radio"/> 自治事務 <input type="radio"/> 法定受託事務 (選択してください)→			法令上の位置づけ	実施する規定はない
事業開始年度	開始年度	平成25年度以前	～	終了年度	-
関連法令等	スポーツ基本法				
国・県の計画等	スポーツ立国戦略			計画期間	-
関連個別計画	伊勢原市教育振興基本計画 伊勢原市市民生涯スポーツ推進基本計画			計画期間	平成22年度～平成29年度 平成25年度～平成34年度
実施の背景 (事業を取りまく環境・市民ニーズ)	少子高齢化社会の進展に伴い、増え続ける中高齢者を対象としたシニア部門を新設するなど、更なる市民総体の競技スポーツに関する参加機会の要望が高まっている。				
目的 (何をどうしたいのか)	市民協働を基盤として継続的に運動・スポーツの機会を提供し、生涯スポーツの一層の拡充を図り、より多くの市民が競技スポーツ大会へ参加できるよう推進する。また、伊勢原射撃場を活用した競技の推進により、地域の活性化を図る。				
主な対象 (誰・何を対象に)	市民や各種スポーツ関係団体				
事業内容 (手段、手法など)	<ul style="list-style-type: none"> ・競技スポーツ大会の継続実施を行うとともに、シニアスポーツ大会の実施により、市民の競技スポーツ大会への参加を促進します。 ・伊勢原射撃場の市民利用を促進し、関係機関等との協働により講習会等を実施することで、市民スポーツの振興と競技人口の底辺拡大、人材の育成を推進します。 				
事業行程	項目	年度			
		28年度	29年度		
	市選手権・市総合体育大会	継続実施	継続実施		
	シニアスポーツ競技大会	継続実施	継続実施		
	チームライフフル講習会	継続実施	継続実施		
スポーツ広場の充実	利用促進	利用促進			
目 標	【指標名】	【現状】	年度		
			28年度	29年度	
	競技スポーツ大会、講習会の参加者数	6,445人	8,500人	9,000人	

 事業実施(Do)へ

事業実施 (D○)

事業の「取組方針」 (前年度事務事業評価)	多くの市民による競技スポーツ大会への参加を促進するとともに、伊勢原射撃場を活用して、ビームライフル射撃体験教室等の充実、市内大学の指導者派遣や施設の定期的な借用などにより、市民スポーツの振興と競技人口の拡大、人材育成を推進する。また、新たなスポーツ広場を整備し、更なる機会の充実を図るとともに、スポーツ活動の拠点として有効活用していく。			
実施方法 〔選択・記入〕	<input type="radio"/> すべて直接実施 <input checked="" type="radio"/> 左記以外			
	<input checked="" type="checkbox"/> 業務委託	<input type="checkbox"/> 指定管理	委託先又は指定管理者 市選手権は伊勢原市体育協会に委託	
	<input type="checkbox"/> 補助金		補助先	
	<input type="checkbox"/> その他		具体的内容	
実施結果	項目	年度		
		28年度	29年度	
	市選手権・市総合体育大会	継続実施		
	シニアスポーツ競技大会	継続実施		
	ビームライフル講習会	継続実施		
	スポーツ広場の充実	利用促進		
実施した取組の内容	市体育協会やレクリエーション協会による各種目の競技大会を実施した。また、県立伊勢原射撃場を活用したビームライフル射撃体験教室を3回開催し、新たな競技人口の拡大や人材育成を推進した。さらに、市有地を活用し整備したスポーツ広場の利用促進を図った。			
目標の達成状況	【指標名】	【現状】	年度	
			28年度	29年度
	競技スポーツ大会、講習会の参加者数	6,445人	8,431人	

コスト	年度	28年度 実績				29年度 実績				
	事業費合計 (a)		1,309	千円				千円		
	内訳	国県支出金 ①	0	千円				千円		
		地方債 ②	0	千円				千円		
		その他特財 ③	0	千円				千円		
		一般財源 (a)-①-②-③	1,309	千円			0	千円		
	国県支出金の内容									
	その他特財の内容	受益者負担	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無		前回の改定時期					
		その他								
	人件費	正規職員	0.7	人	6,055	千円		人		千円
		その他の職員	0	人	0	千円		人		千円
		人件費合計 (b)	0.7	人	6,055	千円		人		千円
	トータルコスト (a)+(b)		7,364	千円						千円
	単位当たりコスト	対象数	定義	競技大会、講習会等参加者数		単位			単位	
			対象数	8,431	人					
総事業費 / 対象数		873	円					円		

評 価 (Check)				
進捗状況 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり (A) <input type="radio"/> 概ね計画どおり (B) <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず (C)	A	左記判断理由	市選手権大会や市総合体育大会を計画どおりに実施し、競技スポーツ大会への参加機会を提供した。さらに、県立伊勢原射撃場を活用したビームライフル体験教室を開催することで、新たなスポーツ競技に触れる機会を提供した。また、市有地を活用し整備したスポーツ広場の利用促進を行った。
実施水準 〔選択・記入〕	<input type="radio"/> 他市より高い水準で実施 (A) <input checked="" type="radio"/> 他市と同水準で実施 (B) <input type="radio"/> 他市より低い水準で実施 (C) <input type="radio"/> 一律に比較できない事業	B	他都市の事業内容等	スポーツ競技大会は、各市とも各種目大会が開催され、運動・スポーツの機会の提供が行われている。また、他市にない射撃競技施設を活用し事業を展開している。
有効性 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 高い (A) <input type="radio"/> 普通 (B) <input type="radio"/> 低い (C)	A	左記判断理由	各種目団体による自主的な競技大会が実施され、生涯スポーツに親しむ機会を提供することができ、さらに、市内にある射撃競技施設を活用した射撃体験教室を開催するなど、競技人口の拡大と人材育成を図ることができた。
効率性 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施されている (A) <input type="radio"/> 改善の余地がある (B) <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要である (C)	A	左記判断理由	体育協会やレクリエーション協会等との協働による大会運営や大学運動部指導者からの専門的指導などにより、より質の高いスポーツ・レクリエーション事業を効率的に提供できた。


 取組の改善 (Action)へ

取組内容の改善 (Action)				
所属長による今後の方向性の判断	方向性 〔選択〕	<input checked="" type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 見直しの上継続	事業推進上の課題	シニアスポーツ競技大会の開催に向けて行った基礎調査では、シニアの競技人口が少ないことや会場確保が困難等の理由で開催が難しいとの結果が出ていることから、実施内容や方法について再検討するとともに、中高齢者が参加しやすいニュースポーツを取り入れた大会も合わせて検討する必要がある。
次年度取組方針		多くの市民が競技スポーツ大会へ参加できる環境を提供し、県立伊勢原射撃場においてビームライフル射撃体験教室の開催や市内大学のスポーツ指導者の派遣、大学スポーツ施設の定期的な借用など、市民スポーツの振興や競技人口の拡大、人材育成を推進する。新たに整備したスポーツ広場をスポーツ活動の拠点として有効活用し、青少年のスポーツ振興や中高齢者の健康増進を推進する。		
所管部長による総評		引き続き、各種競技団体と連携しながら、スポーツ大会を実施し、競技を通じてスポーツ技術の向上を図るとともに、2019年ラグビーワールドカップや2020年東京オリンピック・パラリンピックが開催されることを契機として、市民総ぐるみのスポーツ振興を向上させ、生涯スポーツの推進や中高齢者の健康増進など、さまざまな観点から事業を展開する必要がある。		